

1969.2.10 KYOTO UNIV. No.1 STRUGGLE

討議資料と展望 第一章 政府一自民党の文教政策批判 P1 第二章 国大協自主規制路線批判 P2 第三章 日共一民高の《全学協議会》方式批判 P2 第四章 闘いの方向 P2

第一章

政府一自民党の文教政策批判

1. 政府一自民党の文教政策批判 政府一自民党の文教政策は、戦後を通じて、常に「教育の民主化」を標榜して、その実現を期して来た。...

学生の権利と参加 研究の「自由」と「自治」

1. 研究の「自由」と「自治」 学生は、大学という社会の中で、研究の自由と自治を求め、その権利を行使する。...

第二章 国大協自主規制路線批判

1. 国大協自主規制路線批判 国大協の自主規制路線は、大学の自治と学生参加を損なうものである。...

「大学の管理運営に関する意見および中間報告」

1. 「大学の管理運営に関する意見および中間報告」 国大協協和四十一年六月、大学の管理運営に関する意見を提出する。...

城西問題 城西大学の現状と今後の展望について述べる。

# STRUGGLE

## 第二章 日共二民青の《全学協議会》方式批判

日共二民青の《全学協議会》方式は、戦後民主主義の崩壊と、新自由主義の台頭を背景として、学生運動の組織化を目的として提唱された。この方式は、従来の学生連帯の枠組みを打破し、より広範な学生層を巻き込むことを目指している。しかし、この方式にはいくつかの問題点がある。

第一、この方式は、学生運動の主体性を弱体化させる傾向がある。従来の学生連帯は、学生自身の意思と行動に基づいて行われていたが、この方式では、外部からの指導や統制が強く働く。これにより、学生自身の主体性が損なわれ、運動の質が低下する可能性がある。

第二、この方式は、学生運動の多様性を抑制する恐れがある。学生運動は、多様な思想や行動様式を包容するべきである。しかし、この方式では、一定の枠組みに拘束され、多様な動きが制限される。これにより、学生運動の活力が失われ、社会への影響力が弱まる可能性がある。

第三、この方式は、学生運動の持続性を損なう恐れがある。学生運動は、短期的な利益や目的を追求するのではなく、長期的な社会変革を目指すべきである。しかし、この方式では、短期的な成果を重視し、長期的な視点から運動を捉えることができない。これにより、学生運動の持続性が損なわれ、社会変革の道程が遠くなる可能性がある。

## 第四章 闘いの方向と展望

闘いの方向と展望は、現在の社会情勢と学生運動の現状を踏まえ、明確に設定されるべきである。まず、闘いの方向としては、社会正義の実現と民主主義の擁護を掲げ、権威主義や独裁主義の排除を目指す必要がある。また、学生自身の権利と利益の擁護も重要な課題である。

展望としては、学生運動が社会変革の主力として活躍し、社会の進歩と発展に貢献することを期待する。しかし、このためには、学生自身の組織力と闘争力の向上が不可欠である。また、社会との連携と協力を強化し、より広範な支持を得ることが求められる。

具体的には、以下のような取り組みが必要である。

- ① 学生自身の主体性を高めるための教育と訓練。
- ② 学生運動の多様性を尊重し、多様な動きを容れようとする。
- ③ 長期的な視点から運動を捉え、持続性を確保する。
- ④ 社会との連携と協力を強化し、社会変革の道程を加速させる。

項目	金額
収入	15,000,000
支出	12,000,000
剰余	3,000,000

この表は、学生運動の財政状況を概観するためのものである。収入は、主に学生からの寄付と社会からの支援から構成されている。支出は、活動のための経費と教育・訓練のための費用に主に充てられている。剰余は、今後の活動に活用される見込みである。

## 参考資料(第二章)

- ① 学生運動の歴史と現状 (著者不明)
- ② 学生連帯の意義と課題 (著者不明)
- ③ 学生運動の組織化とリーダーシップ (著者不明)
- ④ 学生運動と社会変革 (著者不明)
- ⑤ 学生運動の持続性と発展 (著者不明)

## 目次

- 第一章 学生運動の現状と課題
- 第二章 日共二民青の《全学協議会》方式批判
- 第三章 学生運動の組織化とリーダーシップ
- 第四章 闘いの方向と展望
- 第五章 学生運動の持続性と発展